



第77回

企画展 「青木コレクション —徳富蘇峰と青木藤作—」

東日本大震災の発生からまもなく1年になります。宮城県沖を震源としたこの地震は約2万人の死者・行方不明者を出し、数万戸もの家屋が被害を受ける未曾有の大災害となりました。

およそ90年前、徳富蘇峰^{とくともそほう}や青木藤作もまた大地震を経験しています。大正12年（1923）9月1日、神奈川県沖で発生した関東大震災により、多くの建物が倒壊・炎上し、東京は焼け野原と化しました。蘇峰は当時、新邸「山王艸堂^{さんのうそうどう}」を建設中で、しばらくは仮の執筆所「一枝庵^{いっしあん}」で仕事を続けました。一家は近くの借家で生活しますが、その暮らしぶりは六畳の部屋に男3人が寝起きする窮屈なもので、藤作から米などの食料を贈ってもらい当座の困窮をしのいだと言われています。山王艸堂の完成により一枝庵の処遇が問題となりますが、藤作の希望もあり佐久山に移築されることになりました。今回ご紹介するのは蘇峰が一枝庵で使っていた文箱で、蓋の部分には大正12年9月13日の日付とともに、震災後の街の状況や仕事に取り組む蘇峰の様子を伝えています。一枝庵関連の資料は建物の移築に合わせて藤作に渡され、青木コレクションとして収蔵されています。

私たちと同じようにそれまで感じたことのない大きな揺れと地震後の荒廃を体験しながら、復興を成し遂げた先人達。復興の原動力となったのは、震災



「徳富蘇峰使用文箱」（当館蔵）

から十日ほどで仕事を再開した蘇峰からも感じられる、前向きで強い精神力だったのかもしれませんが。

馬頭広重美術館 学芸員 塩野目育枝

【会 期】1月24日(火)～3月4日(日)

【休 館 日】月曜日

【開館時間】午前9時30分～午後5時まで
(但し、入館は午後4時30分まで)

【入館料】 大 人 500円 (450円)
高・大学生 300円 (270円)

※ () は20名以上の団体料金

※70歳以上の高齢者、中学生以下は無料

※障がい者手帳をお持ちの方、付き添い1名は半額

第7回那珂川町版画コンクール 入賞作品展示のお知らせ

町内の児童・生徒からの応募作品のうち、入賞作品を展示します。ぜひご覧ください。

展示期間 2月14日(火)～2月26日(日)

※月曜休館

時 間 午前9時30分～午後5時

場 所 広重美術館 視聴覚研修室ギャラリー

問い合わせ 馬頭広重美術館

☎0287-92-1199

町内各地で 「どんど焼き」

1月8日から1月14日にかけて「どんど焼き」が町内各地で行われました。門松や注連縄などを持ち寄った地域の皆さんは「どんど焼き」の炎や甘酒などで暖を取りながら、今年1年の無病息災を祈りました。(写真は健武地区)



ミニギャラリー